

令和5年度第2回

平塚市文化財保護委員会 次第

日時：令和5年11月30日（木）

午前10時から

場所：平塚市中央公民館 大会議室

平塚市文化財保護委員委嘱式

委嘱状の交付

あいさつ

平塚市文化財保護委員会 会議

1 委員長・副委員長選出

2 議事

(1) 報告事項

平塚市内文化財の調査について（資料1）【公開】

(2) 協議事項

今後の文化財指定等について（資料2）【非公開】

(3) その他【公開】

以上

公 開

平塚市文化財保護委員会 資料1

令和5年度第2回文化財保護委員会

令和5（2023）年11月30日

平塚市内文化財の調査について

1. 正福寺 木造薬師如来立像 修理状況確認について

【確認日時】2023年（令和5年）8月7日

【所在地】光圓美術研究所（鎌倉市材木座3-6-19）

【立会い者】薄井和男氏（文化財保護委員）

瀧本光圀氏（光圓美術研究所・彫刻家）

中嶋課長代理 中村主事（社会教育課）

【修繕工程】

項目	月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
運搬・清掃 樹脂含侵		←→			
接合・補強 木屎・彩色等除去		←→			
燻蒸				←→	
欠損部補填・制作				←→	
仕上げ					←→

【要 旨】

光圓美術研究所にて実施されている、正福寺木造薬師如来立像の修復作業の進捗確認を行った。

仏像に樹脂（パラロイド B72）を含侵させ強度を保てるよう処置が施されていた。また、足が作られ台座上に自立できるようになっていた。

現在は、仏像の頭部、肩から袖の部材、両手と、各矧ぎ目ごとに分解され、欠損部分を新しい木材や木屎（こくそ：木の粉に漆を混ぜたもの）で形成し、漆で接着・補強する作業が行われていた。この作業は10月頃まで継続されるということであった。修理前は、表面の剥落が進み、虫食いの痕も目立っていたが、だいぶ目立たなくなっていた。本体が想定より脆弱なため、慎重に補強作業を実施しているが、全体の行程は予定通り進行しているとのことであった。

以 上



2. 延命寺 木造千手観音菩薩立像及び木造地藏菩薩半跏像(市指定文化財)の調査

【日 時】2023年(令和5年)8月28日(月)

【所在地】延命寺(平塚市上吉沢1514)

【立会い者】薄井和男氏(文化財保護委員)

中嶋課長代理 中村主事(社会教育課)

延命寺関係者1名

調査状況は以下のとおり。

【木造千手観音菩薩立像】

昭和55年1月から翌年1月にかけて実施された仏教彫刻悉皆調査時は、造立年代不詳と報告されている。観音菩薩像は厨子内に安置。普段は厨子を閉めている。今回は造立年代の把握が可能か再調査を実施(鎌倉時代の可能性ありか)。厨子の外側からの目視にとどめる。年代の把握には至らず。再度日程を調整し、住職立会の下実施することとした。時期は12月以降で調整したい。



【木造地藏菩薩半跏像】(市指定文化財)

指定文化財の状態確認を実施。厨子内に安置され、普段は厨子を開けていないとのこと。

像の膝上に黒いホコリが少し溜まるが、像の足元にまで広がる様子はない。虫の糞ではない(薄井先生確認)。虫食いの痕も無く、保存状態は良好であった。



以上

3. 指定文化財の保管状態の調査について

市内指定文化財の状況確認を実施（社会教育課職員）。

① 延命寺 木造地藏菩薩半跏像

1 軀

延命寺本堂内厨子内に保管
保存状態は良好。

確認日：2023年（令和5年）8月28日



② 妙楽寺 木造閻魔王坐像

1 軀

妙楽寺境内山門に保管。

指定当時からみて、大きな変化・劣化は見られない。
両膝のあたり、虫食いが目立つ。

確認日：2023年（令和5年）7月6日



③ 駒形神社棟札・勸化札

（駒形神社（平塚市博物館保管））

11 枚

保存状態は良好。1枚毎、薄葉紙にくるまれ収蔵庫内に保管。

確認日：2023年（令和5年）7月13日

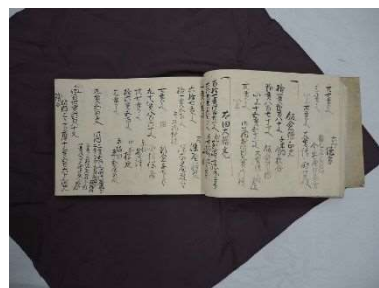


④ 北条氏所領役帳（個人（平塚市博物館寄託））

1 冊

保存状態は良好。博物館収蔵庫内に保管。

確認日：2023年（令和5年）7月13日

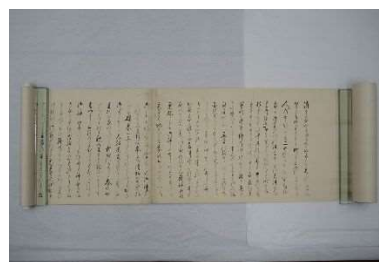


⑤ 中原御宮記（平塚市博物館保管）

1 巻

保存状態は良好。博物館収蔵庫内に保管。

確認日：2023年（令和5年）7月13日



⑥ 大山寺縁起絵巻 (平塚市博物館保管)

2巻

保存状態は良好。博物館収蔵庫内に保管。

確認日：2023年(令和5年)7月13日



⑦ 東川斎桂山筆 不動明王二童子像

(個人(平塚市博物館寄託))

1幅

博物館収蔵庫内に保管。

本紙(作品)に折れ、汚れあり。

一部破れ・穴あり。

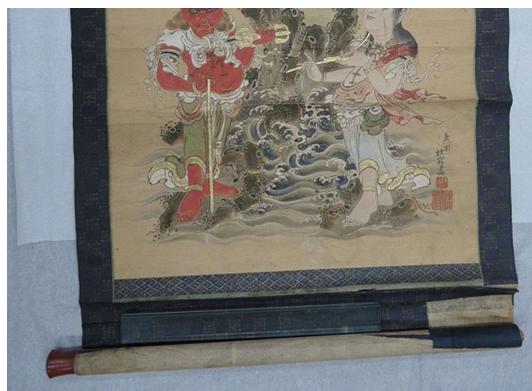
確認日：2023年(令和5年)7月13日



【参考】



妙楽寺 木造 閻魔王坐像



東川斎桂山筆 不動明王二童子像

4. 横内地区包蔵地外の踏査について

【調査日時】2023年（令和5年）11月8日（水）

【場 所】平塚市横内 3781 及びその周辺

【調査者】五十嵐主査、志崎主事、小久保主事（社会教育課職員）、
新宮主事（博物館職員）

【踏査に至る経緯】

周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、1999年（平成11年）9月に宅地造成に伴う試掘確認調査時に竪穴住居跡や井戸状の遺構を確認し、古墳時代前期頃の土器と、平安時代の土師器破片が出土した。また、この調査実施の西側隣地では、平安時代の土師器や須恵器破片と刀子状の石製模造品が発見されている（平塚市教育委員会 2016）。周辺には塚状の高まりがあり、埋蔵文化財包蔵地として周知化する必要性について、その範囲と現状を確認するために踏査を実施した。

【踏査の内容】

当該地は平塚沖積平野の砂州・砂丘域最北端に位置し標高は約 8m、周辺に包蔵地はなく、330m 南に十ノ域遺跡（平塚市№.194、古墳時代から古代の集落遺跡）が存在する。

踏査は平成 11 年調査地点を中心に実施。周辺の道路・住宅地と 4 m ほど比高差のある塚状の高まりを確認した（位置図、写真参照）。塚の頂部は残るものの、裾部には宅地が形成され、大部分が削平されていた。塚東側に裾部が一部残存しており、その断面から砂質土で形成されるのを確認した。直径 30～40m 程度の高まりが存在したと想定される。

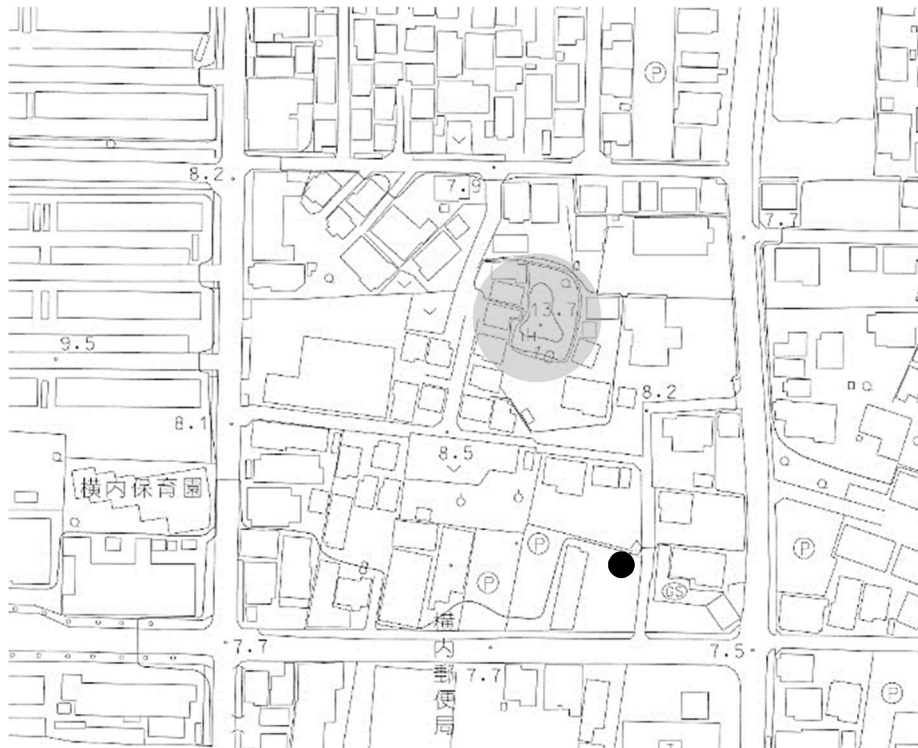
ここには「横内八幡塚」があったとされ、以前村人が種芋の貯蔵のため塚の周囲を掘ったところ刀剣が出土したと伝わる（平塚市 1976）。周辺住民への聞き取りでは、八幡塚の頂部にはかつて石造の社があったという。南側道路わきに、頂部から移したとされる石祠が五輪塔の一部とともに祀られていた。

今回の踏査により、当該地が「八幡塚」であった可能性は十分に高く、地形の様子等から埋蔵文化財が包蔵される地点と捉えられる。

【引用・参考文献】

平塚市教育委員会 2016 『平塚市試掘・確認調査報告書 2』

平塚市 1976 「横内八幡塚」 『平塚市郷土誌事典』



位置図 縮尺=1/2,000



塚の現況（南から）



五輪塔等（●の位置）